

1月 32～35週(月4週授業)

21	木	冬期講習
22	金	冬期講習・志望校特訓
23	土	冬期講習・志望校特訓
24	日	冬期講習・志望校特訓
25	月	冬期講習・志望校特訓
26	火	冬期講習・志望校特訓
27	水	冬期講習・志望校特訓
28	木	冬期講習・志望校特訓
29	金	冬期講習・志望校特訓
12月30日(土)～1月3日(水) 冬期休校		
4	木	冬期講習
5	金	冬期講習
6	土	冬期講習・岡山県公開模試(中1・中2生) 県立中学入試(操山・大安寺・天城中学)
7	日	岡山県公開模試(中3生・山陽学園)
8	月	1月 32週 祝日(通常授業があります。)
9	火	始業式
10	水	課題テスト
11	木	
12	金	
13	土	休校 大学入試共通テスト
14	日	休校 大学入試共通テスト
15	月	1月 33週
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	中3生 受験生補習 小5 適性検査公開模試
21	日	休校
22	月	1月 34週
23	火	
24	水	
25	木	私立高校入試
26	金	私立高校入試
27	土	算数検定・中3生受験生補習
28	日	休校
29	月	1月 35週
30	火	
31	水	
1	木	

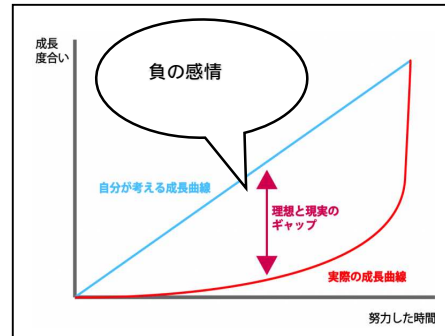
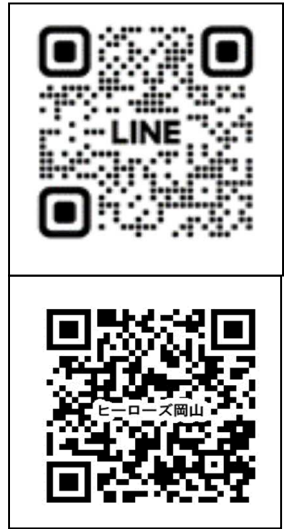
Hero's おかやま

2023年12月

2024年1月号

ヒーローズ塾生のみなさん、保護様方、こんにちは。

2023年、今年もあと2週間。年が明けるともう入試が目前です。この時期に【自身満々】という人はいないはず。模試の志望校判定が安定していなかったり、勉強しても思うような結果が出なかったりするので、誰しもが焦りや不安とともに勉強に励んでいると思います。結果が出ない時期は成長へのステップと考え(ステージ理論・成長はらせん階段)不安になる負の感情はひとまず置き今やれ



ることやります。やれることは「今すぐに」やる。

例えば、問題を解く。勉強の成果がない生徒さんは

出来ないことよりも出来ることから取り組む習慣があるので、出来ることと出来ないことに分けてみましょう。

A 『この問題は入試に出ても大丈夫、でも、落とすわけにはいかない。』

B 『この問題は解けた。不安。後日もう1回。』と

1つ1つの問題を分けていきます。中1や中2のワークなど提出する必要がない教材はバラバラに裁断してもいいでしょう。そしてAとBに分類しBの方はなぜ、出来ないのか？基礎が不足しているのか？理解不足なのか？一つ一つをつぶしていきます。解答解説をじっくり熟読し、それでも解決出来ない場合は質問です。質問をすることでよく考えるようになります。そうして取り組んだBはできるようになるまで後日、また解き直しを行います。勉強が進めば進むほどAの問題が増えていくことを実感すればなおよいはず。

1月6日(土)7日(日)の岡山県模試受験者には範囲表を同封しています。

冬期講習時と同時に申し込みいただいた本年度最後の岡山県公開模試受験者には範囲表を同封しています。中1、中2生は1月6日(土)の妹尾校・茶屋町校。中3生は7日(日)に山陽学園です。受験票は後日、生徒さんにお渡しします。

年始は祝日1月8日(月)から開始です。庭瀬校は9日(火)からの開始、未受講生はお休み。

年内は12月20日の水曜日で通常授業は終了します。21日の木曜日から来年1月6日までは冬期講習の日程での通塾となります。冬期講習未受講生の生徒さんはお休みです(自習スペースの利用は可能です。開校閉校時間を確認してください。)

1月20日(土)に小5適性検査模試を行います。

中学受験の適性検査の公開模試を行います。こちらで受験予定として把握している生徒さんに申込書を同封しています。ご希望の生徒さんは**2024年1月4日(木)までにお申し込みをお願いします。**右記は2024年度の倍率です。天城中学が下がりました。後楽館中学は12月15日が出願期限。まもなくの発表です。

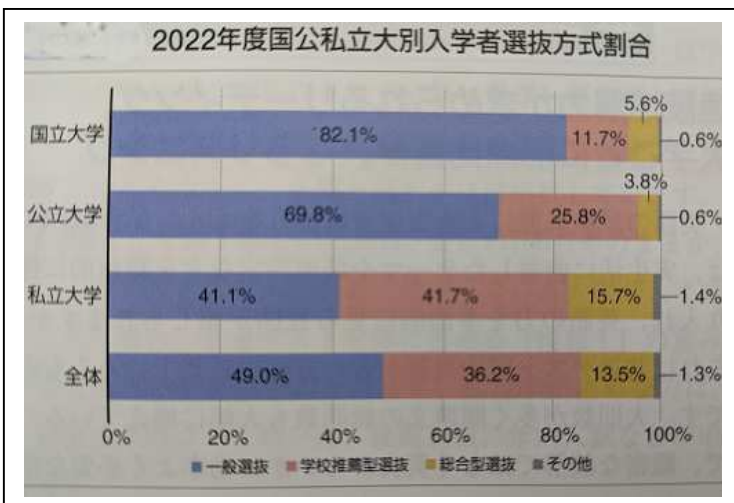
学校名	単位:人		単位:倍	
	募集定員	志願者数	志願倍率	前年比
岡山操山	120	352	2.93	0.06
倉敷天城	120	277	2.31	▲0.41
津山	80	173	2.16	0.31
岡山大安寺	160	473	2.96	▲0.04
後楽館	—	—	—	—
合計	480	1,275	2.66	▲0.30

中3生へ、そのままヒーローズを続けませんか？高校生は100分授業。(2コマ)

「学校の授業を真面目に聞く。」「宿題をきちんとする。」「わからない問題は学校や塾でも質問をして分かりやすく教えてもらう。」「塾の授業を増やす。」これまで優等生だった中学生生活は高校生になると通用しなくなります。中学生での受け身の勉強から自ら行動する主体的な勉強に変えていく必要があるからです。これがパラダイムシフトです。とくに進学校や実業系の人気校に入学すると周囲はみんな同じ順位の生徒さんばかり・・・。授業スピードも格段に上がり週末課題とともに先の進路に向けて考えなければなりません。ここ数年で下記のように大学入試は劇的に変化しています。これから入学するであろう高校の大学進学の実績なども知る必要があります。**大切なのは、高校生活が落ち着くまでは高校入試の受験勉強と同様に努力を怠らないこと。**特に高校の一学期の成績で、三年間の成績が決まると思って間違いありません。例年、継続特典として諸経費(4~9月15,600円)を無料として、**高1の7月頃までは週1日程度(2コマ)の通塾を勧めています。**高校入学はゴールではなくスタートです。同封のピンクの継続案内を期日までご提出をお願いします。引き続きいっしょに頑張りましょう。モノの見方や考え方が劇的に変わることを。

大学受験で存在感を増す学校推薦型選抜と総合型選抜。早めに決めよう。

2022年度の時点で大学入学者全体のうち資料のように約50%がどちらかの選抜で入学しています。とくに私立大学では6



割です。それに比べると国公立大学は共通テストによる一般選抜がまだ中心ですが、2022年度から後期入試を廃止し総合型選抜で多様な学生を確保しようとする動きが見られます。高校もその流れにのり高1から総合型選抜のカリキュラムを組み私立高校の進学コースをはじめ県立高校でも実績が出ています。特に芳泉高校などは268名の国公立合格者のうち105名が推薦・総合型選抜での合格者数で全国トップクラス。ただし学校推進型は指定校推薦と公募推薦があり応募には大学の設定した評定平均基準が条件になります。希望者が多い場合は高校内での競争になるので普段の成績もある程度は必要です。一

方で総合型の出願は自由で高校成績はほとんど加味されませんが日程が早く9月早々には動き出すので志望する大学、学部の情報収集など早めの準備が必要でアピールする検定や課外活動などを計画的に実行することです。双方とも年内入試と呼ばれ、年内に合否が決着するので大きな魅力。仮に不合格でも一般選抜で再挑戦も可能です。